

【二〇〇七年度博士論文・修士論文・卒業論文題目一覧】

〈博士論文〉

日本古代の王権と山野河海

森田喜久男

〈修士論文〉

平安時代前期における大嘗祭御禊行幸の一考察

鴨田 弓枝

戦国大名の宗教政策

長谷川 幸

戦国期南奥政治史の展開と伊達氏

佐藤 貴浩

戦国期伊達氏領国の政治的展開

高橋 俊介

近世村落における人の一生と病

正士 梓

近世東海道における名物の形成と展開

西嶋 晃

近世小藩における在地支配と藩社会

中村 陽平

ペリー来航以前における老中阿部正弘と諸大名

齋藤 佳佑

内務省創設の政治過程

中山 聡

戦間期日本の移民政策

竹内 昆明

戦後、吉田茂の日本復興構想

橋本 直樹

—対共産主義構想を中心として—

栗原 直文

六朝江南の地域社会と「非漢民族」

栗原 直文

宋代アジア東方世界の国際関係

粕谷 良介

—国書形式の分析を中心として—

粕谷 良介

ゲルマン社会における子どもの法・社会的処遇

鈴木明目見

—ゲルマニア諸部族法典を史料の中心として—

鈴木明目見

神奈川県における古墳時代土器の研究

—流通と墳墓における使用法—

中村 慶子

石室からみた古墳時代後期出雲の地域性

田中麻衣子

中世後期における武蔵の唐草文瓦研究

正木 未央

渭河流域における先周・西周時代の陶器研究

八尋ゆかり

中国魏晋南北朝瓦研究

鯨井 美咲

〈卒業論文〉

【日本史学専攻】

邪馬台国の人々 —衣食住を中心に—

横山 翔

律令制下の祈年祭

藤崎 美菜

平安中期の陰陽道

溜 裕子

—安倍家と賀茂家を中心として—

溜 裕子

創りあげられた聖徳太子像

永野 紘子

—その歴史的背景と意義—

永野 紘子

空海と最澄の交流 —「風信帖」を中心に—

沖田美智子

天岩戸神話に関する一考察

大須賀由美

古代の熊野信仰 —鳥を中心に—

池上麻衣香

平治の乱の実態

後藤 早紀

御霊信仰の成立と展開

浦野 茜

齋王と儀式 —律令国家における齋王の存在—

櫻岡 美佳

平安朝の社会 —穢れを中心として—

山田 紘子

古代の呪術 —病気を中心とした一考察—

谷川 円

祥瑞の実態 —『続日本紀』を中心にみる—

伊藤亜由美

古代の託宣 — サニワを中心にする —

采女について — 采女の起りから衰退まで —

ヤマトノオロチの実体

天智天皇の称制・即位と中皇命

古代の駅伝制について

— 伝路という呼称に対しての一考察 —

天叢雲劍と草薙の劍の複合性についての考察

藤原種継暗殺と遷都

下野薬師寺の創建について

平安時代における円珍関係の書について

古代日本と渤海の交渉について

空海の社会活動

淳足柵の存在意義

古代日本の子供の存在形態

親鸞と恵信尼をめぐる諸問題

古代の遊女について

中世社会における食文化 — 飲酒を中心として —

中世都市鎌倉における災害 — 火災を中心として —

中世社会における犬文化

葛西氏の地域支配と織豊政権の奥州仕置

中近世の妻敵討考

鎌倉時代の宗教政策 — 頼朝時代を中心に —

今川氏真室早河殿の生涯について

根城南部氏における八戸信長の家督について

横山 夏希

渡邊 香

西野 洋平

嶋崎 阿紀

本間 祥彰

上野山将太

福井 岳士

安納 淑恵

小澤 純也

長尾 亮平

塚本 泰史

池田 七恵

西原 和代

中島 由貴

関 真子

佐々木里美

横溝 康太

高橋 秀美

遠藤 南

水津 昌治

赤坂 惇平

長島絵理香

滝尻 侑貴

中世の根小屋の様相 — 北関東を中心に —

武田義信の幽閉と飯富虎昌の動向をめぐる

常陸土岐氏の存在形態

戦国期伊達氏の家臣団統制について

— 家督相続を中心として —

甲駿相同盟崩壊過程の一考察

織田信長の軍団形成

— 織田信忠軍団を中心として —

後北条領国における農民の逃亡について

相駿甲同盟と地域社会

— 相模国の情勢とその影響 —

戦国期甲州金山と金山衆の展開

戦国大名武田氏の信濃侵攻と川中島合戦の意義

後北条氏の鶴岡八幡宮再建について

— とくに氏綱を中心に —

大久保忠世と小田原入城の意義

都市法にみる長尾上杉氏の都市支配

明治維新期蝦夷地における旧幕府軍の動向

近世における女性の服飾と化粧

江戸三座の成立と展開

近世における男色風俗

— 歌舞伎・随筆からみる男色 —

近世後期における朝暮関係

— 光格天皇の在任期を中心に —

米山 喬朗

木村 聖

高田 俊亮

山岡 達也

杉山 奈弥

半澤 経明

味木 由依

斉藤 裕和

高野 海

熊井 健夫

目黒 麻美

大久保 優

安藤 実

加藤 友理

池亀 美帆

山本 美美

坪井知恵子

森 小夜子

江戸時代における料理書についての考察	高林 鮎太	―池田屋事件を中心として―	国生 徹雄
徳川秀忠の上田城攻め	厨川 貴司	幕末期における外国人の日本観	志村 桂一
毛利元就と説話・三本の矢	望月 悠	戊辰東北戦争の展開	
江戸時代の金融業の発展	田丸 雄介	―仙台藩の動向を中心として―	高橋 久
武州入間郡における天明の飢饉	内田 賢明	―三井越後屋の研究	小梅 雅由
近世における海難救助と異国船に対する認識	山崎 大輔	慶応期における薩摩藩家老小松帯刀の役割	小松 一磨
―房州千倉浦漂着南京船を事例として―		国会開設運動の展開とその意義	瀧口 周介
浮世絵からみる近世の北方名所	尾崎 千尋	幕末期における農民の武術継承	大隈 正平
―初期歌川広重の作品を中心に―		特攻隊の誕生と思想的背景	
忠臣蔵の起源とその展開	三嶽 遥子	―「精神教育」と昭和戦時体制	長谷川 えりか
婚姻から見る近世の朝幕関係	今野健太郎	郊外の誕生と小林一三の経営理念	西谷 菜摘
近世における越後国頸城郡大瀧郷の開発とその後	新井 直人	―阪急電鉄の沿線開発を中心に―	大塚 彩
近世村落における生活統制と衣服	小泉奈緒子	米内内閣期の外交と防共協定強化問題	
常陸国村松虚空蔵堂に関する史的研究	渡邊可奈子	大正モダニズムにおける都市生活	小野澤佳子
田沼意次の失脚について	穴山 功	―職業婦人の誕生を中心に―	
伊勢参宮道中日記にみる旅費の分析	伊藤 翔太	元老西園寺公望の外交理念と政局運営	蔵田 禎
近世の食文化に関する一考察	小川 恵理	―加藤高明内閣成立経緯を中心に―	
近世における寺社参詣と行楽の様相	白石 尚太	高島素之の国家論	深谷 紀衛
近世の水運に関する一考察	岩倉 智視	―マルクス主義と国家社会主義の相克―	
近世以降における地域社会と寺院	竹内 大崇	開戦外交における「日米諒解案」の史的位	近 佑一
近世の出版文化	齊藤 睦	―「民間外交」の果たした役割	
近世における〈美〉	木下さやか	帝国海軍と対米戦争	
幕末期における新撰組の役割	岩田昌悠子	―海軍国防政策委員会にみる開戦決定の論理を中心に―	坂田 伸吾

日中戦争の展開過程と国際関係

— 盧溝橋事件から日米開戦における

英米独伊の政策変化 —

朝鮮総督府による植民地政策の転換過程

— 三・一独立運動を中心に —

石原莞爾と十五年戦争

— 変動する東アジア社会と

石原の対中国認識をめぐって —

戦時期日本の女性の生活

— 「母性」政策と「女子勤労」を中心に —

七三一部隊の誕生と日中戦争における史的位

明治・大正期における婦人の洋装化

山名文夫にみる商業広告文化の形成と成熟

— 大正・昭和期における商業デザイナーの

活動と作品を通じて —

リットン調査団と「満州国」建国問題

サンフランシスコ平和条約締結交渉における北方領土問題

— 「吉田・ダレス会談」を中心に —

【外国史学専攻・東洋史】

漢代における印綬制度と官爵体系

前漢初期の政治史をめぐる諸問題

衛瓘の九品中正論

前漢時代における「儒教」の成立

三国志英雄像の変遷

秦 道 正

佐藤 充樹

伊藤 俊輔

小川 智大

久保 直矢

阿南 慎介

森下 愛有

須田 信之

藤瀬 智美

清水 智世

瀧口 裕太

飯塚 康隆

西 大介

東アジアにおける媽祖信仰の成立と伝播

宋代の都市風景画『清明上河図』について

唐代におけるソグド人の東方活動

近現代アフガニスタンにおける

パシウトゥーン人とパシウトゥニスタン問題

清末における女性解放運動について

— 纏足問題と女性運動家の台頭 —

宋代江南における地方行政上の鎮

— 湖州府を中心に —

太平天国における天朝田畝制度

— 研究上の評価の変遷 —

【外国史学専攻・西洋史】

古代地中海世界の銅生産と

女神アフロディテの神話の対応について

エルナン・コルテスによるアステカ王国の征服について

古代イオニア諸都市の交易と思想

後継者戦争における王権の正当性について

キリスト教誕生からローマ帝国末期にかけての

洗礼の意義の変遷について

新王国時代における古代エジプト人の日常

— 衣食住と女性の役割 —

古代エジプトにおける死の価値観

古代ローマの結婚衣装と衣装における色の重要性について

阿部健一郎

内村 未希

近藤 大輔

瀧谷 早苗

高橋 美果

富田 芽央

宮崎ちひろ

峯野 祐輔

田子 一道

長山 智美

野田 麻未

石塚 由樹

浅野 宏実

伊藤 史乃

小山田裕貴

ローマ帝国共和政期の軍

—その構造と戦術そして勝利の要因—

ユリウス・カエサル生涯とその業績について

古代ローマ帝国の民衆文化 —衣食について—

フィリップス二世とアレクサンドロス大王の

国内統合政策の違いについて

マラトンの戦いにおけるギリシャ軍の勝因とは

古代エジプト女王クレオパトラ

—時代の異なる歴史家たちが語る

彼女の表現の違いについて—

エトルリアのローマ化と独自性の消失について

古代ギリシアにおける民主政

—その運用を支えたもの—

黒人霊歌の誕生と発展

古代ギリシアの戦争と生活

アウグストゥスによるパクスロマーナの実現について

ジャンヌ・ダルクはどのように断罪されたか

—主に裁判記録を資料として—

百年戦争が与えたバラ戦争への影響

中世後期のプラハにおける政治と都市形成の関係

オスカール・ワイルド裁判

—なぜワイルドは破滅したのか—

ガレー船の歴史 —その起源から終焉まで—

中世キリスト教教会建築にみる異教

吉原 佳祐

飯田 雅人

五十嵐有希

捧 昂大

茂木 高雄

花木 智子

坂元 定之

河合 秀晃

蓼沼 大樹

荒井 康太

小荒井 一種

坂下 芳和

野口 奈月

佐々木 綾

藤井重矢子

平野 宏幸

小堀恵里佳

「ゴシック」理念の歴史

アメリカ独立宣言の思想性

—スコットランド啓蒙哲学との関係—

ジャンヌ・ダルクの偉業とその歴史的意義

マリー・アントワネットの日常生活の状況と

その実態についての研究

北欧中世にどのようにしてキリスト教が伝播したか

物語から見る西洋中世の庶民

近現代ドイツ史における第一次、第二次世界大戦期の考察

—ヒムラーのヒトラー観を中心として—

魔女狩りにおける魔女観の変遷に関する考察

魔女の社会的生成についての歴史的考察

中世における迷宮表象 —その宗教的意味の変化—

ケルト文化はどのように歴史的に認識されてきたか

アーサー王とされる人物についての研究

ヨーロッパ中近世における

キリスト教社会のアウトサイダーについて

マリア・テレジア治世下のオーストリアにおける教育について

一九世紀イギリスにおけるガヴァネスの実像

第二次世界大戦における捕虜の扱いについて

ドイツ中世都市の建設

古典期ギリシアにおけるエイサンゲリアの役割

伊藤 美穂

津村郁奈江

竹内 愛

長澤 緩奈

星 裕子

多賀谷翔太

長牛 雄介

洪田亜佑美

大島 美穂

佐藤 若奈

村田 壮介

梅山 義昭

遠藤ひとみ

中山 裕子

北村 朋子

藤井 一成

市原 治

月岡 祐人

オーストラリアはいかにして植民地から国家と成り得たか

菊池 沙織

ヒトラーとユダヤ人絶滅政策の関係

戸井田幸浩

ヒトラーの精神分析

田原 穰

イギリス近世における貴族生活

根本美奈子

— 衣服を中心に —

佐藤 亮

一九二〇年代における移民制限論の背景

土居 由幸

— アメリカの選択 —

佐野麻衣子

デンマークにおける絶対世襲政府文書公布と

後藤 宝慶

中世ペストの脅威とその波紋

五十嵐光俊

— 百年戦争がもたらしたものと

石原 園実

その後の市民生活について

千葉 順平

帝政ローマにおける道路の軍事利用について

湯淺 由樹

ウィーン革命期におけるリーニエ内外の民衆意識について

谷川 亮太

キリスト教宗教改革における民衆への思想伝達について

宝 智

第二次世界大戦後のアメリカ軍需産業と国防総省

魔女狩り期における女性観

【考古学専攻】

オホーツク式土器の変遷の意義

火山災害考古学

沖ノ島祭祀の変遷とその歴史的背景

原始絵画の変遷

イースター島の歴史の解明

— モアイとロンゴ・ロンゴについて —

生業における干潟の利用について

— 中里貝塚を中心に —

蒲生君平とその思想

墨書土器から見る古代東国村落における文字普及

九州における球状耳飾の起源について

千葉県における古墳出土の石釧について

— 七廻塚古墳出土の石釧を中心に —

鳥形埴輪の特徴と性格について

古墳時代の製塩 — 瀬戸内海を中心として —

伊勢地域における土師器焼成坑について

— 形態の特殊性とその背景を中心として —

古代日本人の四神信仰

神奈川県出土の古墳時代祭祀遺物について

房総半島における出現期古墳

埴輪からみる古墳時代の力士像

皆木 克丸

橋本 賢司

福田 篤

佐野 友美

山下 征哉

久保田健士

岩田 沙織

柳田 直也

井上 義仁

杉山 允則

高橋 弘成

赤坂 宏史

朝山 勲

宮下 卓士

油布 憲昭

奥田 志織

大森佐恵子

中村 克彦

黒松 旭

千葉における古墳時代の埋葬様式

弥生時代における戦いの発生と武具の変遷

硬玉製大珠の出現と消滅

人物埴輪の坐像立像比較

容器形土偶と人面付土器の関係性

渡来文化の影響によって縄文大利用はどう変化したか

群馬県における石器の始まりと終わり

関東地方における後期旧石器時代の居住を考える

—環状ブロック群を中心として—

統縄文時代の墓から見る社会構造

古代のリズム・ミュージック

—楽器遺物からみる古代人—

「広島・被爆建造物」

—パブリック考古学の視点から—

シカ狩りの盛衰

装身具を伴う埋葬人骨からみた縄文時代の装身原理

縄文時代の漆工技術と生活の様相について

食生活からみた琉球縄文文化

長野県における縄文中期の立体画

配石遺構からたどる縄文祭祀

—静岡県上白岩遺跡を中心に—

九州地方における支石墓を考える

縄文時代と弥生時代の境目

—稲作の変遷を中心に—

齊藤 巨剛

西井 辰徳

佐々木ちひろ

山口 陽介

渡辺 美絵

古橋美紀子

杉田 雄基

與儀 裕美

佐藤 晴子

友末 稔一

門谷 理加

山中 浩文

湯原 直子

佐藤奈々恵

藤田 智文

永嶋亜紀子

齊藤あかね

近藤 由香

小田部祐菜

小銅鐸と銅鐸形土製品の二つの祭祀について

日本考古学における四国地方の縄文文化の固有性

古代エジプトの古王国時代における冶金技術について

—ペピ二世像とサッカラのマスタバ墓を中心に—

渤海遺跡出土の仏教遺物

戦国および秦漢における金餅について

殷代中期における邑について

木津 情美

安藤 一晃

坂爪 絵美

篠原恵美子

杉本 祐美

松村 亮太